医療法人　桜希会

東朋八尾病院

チーム医療体制の構築と手術支援ロボットの導入で負担の少ない人工関節置換術を提供

高度かつ低侵襲な手術で地域医療に貢献

近鉄八尾駅から少し歩くと、東朋八尾病院が見えてくる。その整形外科に大きな変化が起きている。2019年には40件※1だった人工膝関節置換術が、2020年には116件※2、2021年には150件※3と大幅に増加したのだ。

「当院では60歳から最高齢だと101歳まで、幅広い世代に実施しています」と語るのは2020年に着任した奥田院長だ。

同院の人工関節置換術の特徴はスピードだ。膝関節の場合は片膝で30分前後、両膝だと1時間程度で完了する。短時間であるほど麻酔の量や感染リスクも減り、患者の負担は軽減する。手術室看護師にパターン化した工程を共有することで、スピードアップにつながった。

人工膝関節置換術で活躍する手術支援ロボット

院長・人工関節センター長
奥田　真義

おくだ・まさよし●1997年、奈良県立医科大学卒業。八尾総合病院、ドイツ留学などを経て現職。医学博士。日本整形外科学会認定整形外科専門医。

人工股関節置換術では側臥位から上方侵入で6～8㌢の切開という低侵襲な術式を採用。3Dプランニング術前計画も活用し精度を向上させる。

また膝・股関節ともにセメントレスのインプラントを使用する点も特徴だ。手術時間を短縮できるだけではなく、耐用年数の延伸も期待できる。

2021年10月には手術支援ロボットを導入。府内でも導入事例は数少なく、八尾市だけでなく府内全域や他県からも患者が訪れる。「ロボティックアームによって、非常に正確に骨を切ることが可能です」と奥田院長は話す。慢性疼痛や膝への再生医療※4も開始し、治療の選択肢も幅広い。

リハビリにも力を入れる。患者の機能回復を重視し、10日～3週間の入院期間で階段の昇降が可能になるよう綿密に行う。奥田院長自ら、理学療法士に人工関節置換術を受けた患者の特徴を教えている。

多職種とも連携したチーム医療を大切にし、その姿を変えていく同院から目が離せない。

取材・文／高橋美森

〒581-0802
大阪府八尾市北本町２丁目10-54
TEL. 072-924-0281（代表）
【整形外科の診療時間】
月～金 9:00～12:00／
金 14:00～16:00※要予約
https://oukikai.or.jp/toho_yao/

整形外科の手術スタッフたちと手術支援ロボット

※1 2019年1月～12月　※2 2020年1月～12月　※3 2021年1月～12月　※4 自由診療（すべて税込）　慢性疼痛143万円～　両膝176万円～　片膝110万円～